

カーペットタイルで明るく感じる空間をつくる

当社は空間の明るさ感に着目し、反射率の高いカーペットタイルをラインアップに多く揃えました。
当社の製品は、Feu値にもとづくシミュレーションにより空間を明るくする効果があることが確認されました。

平均照度を下げても「空間の明るさ感指標」を
維持します



イルミナ・アース D
NTH-71407



平均照度を下げても「空間の明るさ感指標」が
上がります



イルミナ・アース D
NTH-71406



平均照度を下げても「空間の明るさ感指標」が
大きく上がります



イルミナ・アース D
NTH-71403



最近のオフィスでは省エネルギーの観点から設計照度を従来よりも抑えようとする考え方が増えつつあります。しかし、単純に照度を下げってしまうと、空間の明るさ感が低下し、雰囲気や損なうばかりでなく、作業効率の低下や眼の疲労にもつながります。これからのオフィス照明は、照度だけでなく、空間の明るさ感も考慮することが大切です。反射率の高いカーペットタイルを選ぶことで、平均照度を下げても空間を明るく感じることができます。

※左記は下の「空間の明るさ感指標を比較」での比較検証方法によるものです。
このシミュレーションには什器・パーティションなどは配置されていません。
視野や視線方向、家具・什器・パーティションなどの配置により異なります。

検証

各カーペットタイルの空間面積や照明設定などを同条件にして
空間の明るさ感指標 (Feu)^{※1}を比較

※空間の明るさ感指標は試算値であり保証値ではありません

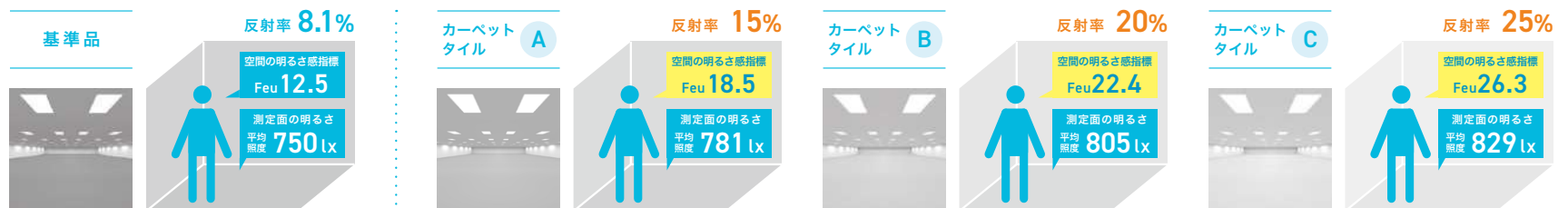
検証 1

基準となるカーペットタイルを 750 lx の平均照度に設定し

基準と同じ照明設定で A B C 3種類のカーペットタイルにより空間の明るさ感を比較検証

反射率が高いカーペットタイルほど、空間の明るさ感指標 (Feu) が上がります

／ 検証空間面積 519.84㎡



検証 2

基準の照明(照度 750 lx)に対して A B C 3種類の空間ともに照明を同設定で弱め

各平均照度を 500 lx 台に下げ、3種類のカーペットタイルにより空間の明るさ感を比較検証

照度を下げても空間の明るさ感指標 (Feu) が維持、または上がります

／ 検証空間面積 519.84㎡



※設計照度は視作業や活動を考慮して設定されます。明るさ感の確保により同等の視作業を確保するものではありません。

※1

空間の明るさ感指標 ▶ Feu

「空間の明るさ感指標」にはパナソニック㈱が提案しているFeuを使用しています。Feu(フィー)は人間が感じる「空間の明るさ感」を定量化し、指標にしたものです。平均照度と合わせて、人間の目が天井・壁・床を含めた空間全体を見るとき印象を定量的に扱うことで、より快適な光環境の設計に貢献します。

[Feu設計については下記URL参照]

<https://www2.panasonic.biz/jp/lighting/plam/knowledge/feu/feu-1.html>

床 って、 採光だ。

オフィスワーカーのWellness(幸福感)に、「光環境」からアプローチします。

明るく感じる空間で働くことが、 Wellnessへとつながる。

明るい空間で働くことでチームでの闊達な議論や、リラックスできるコミュニケーションにもつながり、オフィスワーカーの働く幸福感につながります。これからのオフィスは、単なる執務空間ではなく、ワーカーどうしが交流し、イノベティブなアイデア創出を求められる空間に変化していきます。



明るく感じる空間で より気持ちよく働くことが求められる時代

オフィス内装では、天井・壁は白色を選定しますが、床は従来濃色を選定する傾向が強くあります。「明るく感じる空間」を作るには「床」の色を変えることがとても重要なポイントになります。

よりフレキシブルを求める中 空間に占める床面の比率がとても重要

これからのオフィス空間は、ワーク・ディスカッション・コミュニケーション・リラックスなど、用途や出社人数に合わせて、より自由にレイアウトを変更できることも重要です。デジタル化が進み、家具や収納もサイズダウンし、よりフレキシブルですっきりした空間が求められる中で、空間に占める床面の比率は大きくなり、重要性はますます高くなっていきます。



POINT

従来の壁やパーティションなどが多く、対向島型にデスクが並ぶ空間から、軽快でフレキシブルなフリーアドレス型のオフィス空間が増えています。